

幼稚園教育実習に関する研究Ⅱ

— 就職先の違いと関連する要因の検討 —

○ 柄田毅 金子智栄子 牧田薫 高橋真由美

(文京学院大学人間学部保育学科)

〔目的〕

本学の幼稚園教育実習は、3年次に観察・参加実習、4年次に指導実習が2週間ずつ実施される。実習は模擬的な職場体験でもあり、学生が進路を決定する要因を多く含んでいると考えられる。そして、本学の卒業生は、私立幼稚園と公立保育所に多く就職しているのが現状である。そこで研究Ⅱでは、私立幼稚園教諭になった学生と公立保育所保育士になった学生を対象に、就職先の違いと実習経験等との関連を分析、検討することを目的とする。

〔方法〕

1. 対象者：研究Ⅰの対象者98名の内、私立幼稚園教諭に内定した者（以降、私幼群と記す）55名（56.1%）と、公立保育所保育士への内定者（以降、公保群と記す）22名（22.4%）、合計77名（78.6%）。

2. 調査期間と実習期間：研究Ⅰ参照。

3. 実習評価と調査内容：3年次と4年次の実習に関して下記のデータを収集した。

1) 実習評価：総合評価を用いた（研究Ⅰ参照）。

2) 調査内容：

(1) 要求される実習生の資質とそれに対する学生の達成度、園の受入れ状況（研究Ⅰ参照）。

(2) 就職希望：幼稚園、保育所等について第1希望と第2希望を選択させた。

(3) 進路希望：「入学時と比べて進路希望の変更がありましたか」について「はい・いいえ」のどちらかを選択させ、その理由について記述させた。

(4) 実習内容：指導案のない部分実習、指導案のある部分実習、指導案のない全日実習、指導案のある全日実習、反省会のそれぞれの回数と内容を記入させた。

〔結果と考察〕

1. 就職希望と進路希望の変更

就職希望1位に幼稚園もしくは保育所を選択した人数とその割合、進路希望変更の人数とその割合を、群別に表1に示す。就職希望では、私幼群の75%が幼稚園への就職を希望し、公保群の86%は保育所を希望した。このことから、多くの学生が希望した就職先への内定を実現していることがわかる。進路希望の変更に関して、私幼群75%と公保群59%が入学時の進路希望を変更していないことが示された。 χ^2 検定を行っ

たところ、両群間に進路希望の変更の割合に差はなかった。

表1 就職希望1位と進路希望変更の人数と割合

	就職希望			進路希望の変更	
	幼稚園	保育所	その他	あり	なし
私幼 55人 (100%)	41人 (74.5%)	11人 (20.0%)	3人 (5.5%)	14人 (25.5%)	41人 (74.5%)
公保 22人 (100%)	2人 (9.1%)	19人 (86.4%)	1人 (4.9%)	9人 (40.9%)	13人 (59.1%)

進路の変更がなく、入学時の希望を一層強めたと回答した者は私幼群21名、公保群9名、合計30名で、全体(77名)の39.0%であった。その理由として、実習を通してやりがいのある仕事だと思った、実習園の方針が自分の考えと合っていた、子どもと関わることで感動が多かった、という記述があった。この結果、54名の学生(全体の70.1%)は入学時の進路希望を卒業時まで継続していくことや、実習などによって4割が進路希望を強めることがわかる。

一方、変更があったと回答した者からは、実習してみても幼稚園教諭(保育士)に志望が変わった、保育所にいる0~2歳児の保育に興味をもった、という回答があり、進路変更に対しても実習体験が影響していると考えられる。

2. 実習評価

3年次と4年次について、私幼群と公保群の総合評価の平均値(M)と標準偏差(SD)を算出し、t検定を行った。その結果、3年次、4年次とも両群間に有意差は得られなかった。

3. 実習園の受け入れ状況

3年次と4年次の実習園の受け入れ状況について、2群間で行ったt検定の結果を、表2に示す。

表2 教育実習における実習園の受け入れ状況

群(N)	3年次 M(SD)	4年次 M(SD)
私幼(55)	3.39(0.83)	3.75(0.67)
	**	
公保(22)	2.62(1.07)	3.43(0.93)

** p<0.01

4年次は有意な差は得られなかったが、3年次実習では、私幼群の方が公保群に比べ有意に高く評定した。3年次、4年次ともに9月に実習が行われるが、4年次の実習時期には就職先を決定している者も多い。3年次の実習の受け入れの良さが就職先を決定しているのかも知れない。

4. 実習内容

2群間に有意差の得られた内容は指導案のある部分実習の回数である。

表3 指導案のある部分実習の回数

群(N)	3年次 M(SD)	4年次 M(SD)
私幼(55)	0.92(1.60)	2.29(2.69)
	+	*
公保(22)	0.31(0.85)	0.93(1.14)
	+ p<0.1, * p<0.05	

表3より、私幼群の方が公保群に比べ3年次、4年次ともに回数が多い傾向を示している。指導案を作成させる部分実習は指導を行う教諭の負担を多くすると思われるが、こうした熱心な指導が、受け入れ状況を良好に感じさせ、就職へと動機づけるのかも知れない。なお、両群とも3年次の平均値が1よりも小さかったのは、この年次の実習内容が観察・参加であったためと考える。

5. 要求される実習生の資質とそれに対する学生の達成度

要求度、もしくは達成度に関して各項目評定の総和を総合評定とした。

1) 3年次実習

2群間のt検定の結果を、総合評定については表4、有意差のある項目については表5に示す。実習態度の要求度の総合評定、協調性、親和度が私幼群の方が有意に高い。

2) 4年次実習

表6と表7より、保育技術の要求度において総合評定、観察、環境整備、教材研究、日誌が、私幼群の方が有意に高い。

表4 3年次実習の総合評定

群(N)	実習態度 M(SD)		保育技術 M(SD)	
	要求 *	達成	要求	達成
私幼(55)	3.71 (0.38)	85.76 (11.10)	3.38 (0.51)	77.16 (10.64)
公保(22)	3.46 (0.47)	83.10 (10.16)	3.17 (0.51)	78.34 (7.57)

* p<0.05

表5 3年次実習実習態度の要求度

群(N)	協調性	親和度
	M(SD) *	M(SD) **
私幼(55)	3.53 (0.67)	4.00 (0.00)
公保(22)	3.14 (0.71)	3.66 (0.76)

* p<0.05, ** p<0.01

表6 4年次実習の総合評定

群(N)	実習態度 M(SD)		保育技術 M(SD)	
	要求	達成	要求 **	達成
私幼(55)	3.74 (0.34)	90.53 (8.21)	3.74 (0.33)	86.93 (7.41)
公保(22)	3.67 (0.31)	87.11 (7.73)	3.49 (0.40)	83.22 (6.42)

** p<0.01

表7 4年次実習保育技術の要求度

群(N)	観察	環境整備	教材研究	日誌
	M(SD) **	M(SD) **	M(SD) *	M(SD) *
私幼(55)	3.83 (0.43)	3.75 (0.48)	3.63 (0.56)	3.71 (0.54)
公保(22)	3.43 (0.60)	3.33 (0.58)	3.29 (0.78)	3.40 (0.60)

* p<0.05, ** p<0.01

幼稚園に就職した学生は、3年次では実習態度、4年次では保育技術に関して園からの要求を強く感じていた。達成度は3、4年次とも差がなかったことから、要求に応じようと頑張ったことが推測される。私幼群は幼稚園への就職希望者が多い。自分の就職先と関連して実習を捉えやすく、真摯な態度を形成しやすいと考える。そのために実習園からの要求度を強く感じ、それを達成しようと意欲的になっていくのであろう。

[まとめ]

学生の多くは入学時の進路希望を卒業まで継続していくことがわかった。実習園の受け入れや指導内容が進路を選択する要因となることがうかがえた。そして幼稚園に就職した学生は園から強い要求を感じ、応じようと努力していることが推測された。学内の実習指導において、進路希望を配慮する必要性が示されたと考える。今後は保育所実習についても調査し、より有益な実習指導を実施したいと考える。